知床博物館研究報告 Bulletin of the
Shiretoko Museum 25 : 7 - 12（2004）

# 知床半島にゼニガタアザラシの繁殖場はあったか

宇仁義和

093-0006 網走市南６条東５丁目６番地，ユニス：宇仁自然歴史研究所

# Did they breed in Shiretoko penninsula? A consideration on Kuril seal *Phoca vitulina*

UNI Yoshikazu

UNIS: Uni's office of Nature-human Interaction Studies, Minami 6-Higashi5, Abashiri, Hokkaido 093-0006, Japan.
*unisan@m5.dion.ne.jp*

Reports of scientific survey and geographical research were examined for existence of breeding ground of Kuril seal or harbor seal *Phoca vitulina* in Shiretoko peninsula. Geographical researchs in 1850s recognaized that the species did not occur there. Scientific surveys carried between 1950s and 1990s reported neither of a breeding ground nor a sighting of the species, but one record of adult male shot at Kuzure-hama, near Shiretoko cape, in 1980 . Only elder Ainu tale in 1950s suggested that the species bred at Shari. Since, it is unlikely that existence of a breeding ground for Kuril seal in Shiretoko peninsula.

## はじめに

知床半島は2004年１月に世界遺産に推薦された．そのため自然状態の植生や動物種の分布情報について，不明瞭なものに関して再確認が求められている．ゼニガタアザラシ *Phoca vitulina* Linnaeus, 1758 もそのひとつである．Ohtaishi & Yoneda (1981)は1980年に知床岬付近羅臼側の崩浜で34歳の雄が猟獲されたことを報告し，トド・アザラシハンターとして知られた羅臼町の子出藤一松氏からの聞き取りから，1959年まで崩浜から念仏岩の間を繁殖場としていたという情報を紹介している．この聞き取り記録をもとに，大泰司・齋藤 (1981)は「かつては知床岬－化石浜で繁殖していたが，現在繁殖は全くみられない」と記述した．これは宇野・山中（1988）に引用され，現行の知床半島の哺乳類リスト（斜里町立知床博物館 2000）にも本種が掲載されている．また『羅臼町百年史』（羅臼町 2001）でも本種の繁殖場が知床岬と化石浜の間にあったとしている．

しかし，知床半島沿岸では本種の近年の観察はなく，現在もっとも近くで観察されるのは野付湾である（宇仁 2004）．本稿では，北海道東部から南千島の観察記録，江戸時代以降の調査報告，そして『斜里町史』の記述から，ゼニガタアザラシの知床半島での繁殖について検討する．

なお，斜里町と羅臼町の発掘調査報告には同種が知床に多数分布していたことを明確に示す資料はなく，また，新たな聞き取り調査は実施していない．

## １．北海道東部から南千島のゼニガタアザラシの観察記録

前述のとおり，Ohtaishi & Yoneda (1981)は知床に本種の繁殖場があったとする聞き取りを紹介しているが，本文中では捕獲個体は知床の繁殖場由来の個体の生き残りとするより国後島から来遊した可能性が高いとし，知床岬付近に繁殖場があったかどうかについては考察を加えていない．大泰司・齋藤（1981）でも考察は行っていない．よって，これらの報告だけでは知床半島にゼニガタアザラシの繁殖地があったとは判断できない．

Naito & Nishiwaki (1972) では知床岬から納沙布岬までの定置網でもゼニガタアザラシはしばしば混獲されると報告しているが，知床沿岸での混獲

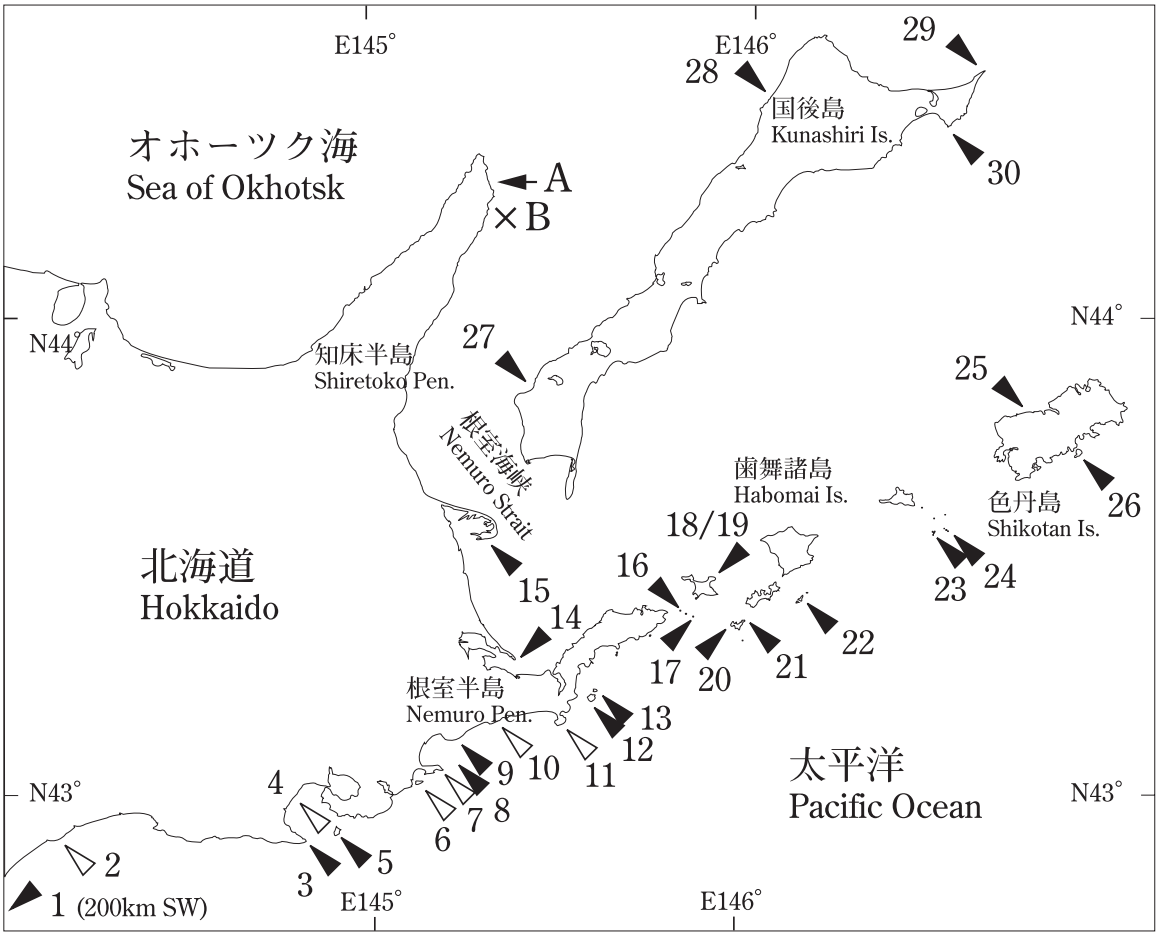


図1．知床半島のゼニガタアザラシの記録と北海道から南千島の上陸場の位置．▲：現存する上陸場，△：1960年代までに失われた上陸場，←：伝聞による繁殖場（A），×：1980年の捕獲場所（B）．番号は表１に対応する．**Fig.1.** Location of records of Kuril seal *Phoca vitulina* in Shiretoko peninsula and haulout site along Hokkaido and south Kuril. Arrowheads: represent haulout site in presence, open arrowhead haulout site lost by 1960s, arrow: breeding ground by tale (A), cross: shot in 1980 (B). No. is shown as table 1.

数は明記していない．和田ら（1986）によると1982-1983年の根室半島周辺のサケ定置網での同種の混獲数は，浜中漁協管内15頭，落石漁協管内16頭，歯舞漁協管内209頭，根室・根室湾中部漁協管内６頭，羅臼漁協管内ではゼロであった．ただし，この調査は根室半島を中心にしたものであり，羅臼漁協については調査努力量が少なく単純な比較はできない．また，知床半島基部の標津漁協の情報が欠如しており，同種の知床半島での分布を考察するには参考程度の情報である．いずれにせよ，1970年代以降の科学調査では知床半島にゼニガタアザラシの繁殖や上陸地は観察されていない．

一方，1970年代以降のゼニガタアザラシの分布は，北海道では襟裳岬及び厚岸湾から納沙布岬にかけての太平洋岸であり（伊藤・宿野部 1986），1990年代の調査によると北方四島での分布の中心は歯舞諸島と色丹島で（青木 1993），国後島には４か所の上陸場が確認された（ネベドンスカヤら 1998）．これらを合わせると北海道と北方四島に，現存する上陸地は24か所，1960年代までに失われた過去の上陸地は６か所となる（表１および図１）．なお，北方四島の分布情報については，ロシア漁業規制局の調査では，両種の識別根拠が必ずしも明確でなく，黒ければゼニガタアザラシ，白ければゴマフアザラシと区別していたため（長田 1993），ロシア側発表の調査報告は用いなかった．

1960年代以前の調査や報告では，犬飼（1954）

は知床岬付近は調査しておらずゼニガタアザラシへの言及はなく，犬飼（1967）は一般的概説に「寒流親潮の関係でチシマアザラシも現れるが数は少ない」と根拠を示さず記述し，1965年７月に知床岬羅臼側の赤岩を調査したが「ゴマフアザラシ１頭を見た」と記録するだけである．1959年（昭和34）から取材を続けた『野性への旅・知床半島』（戸川 1961）は知床半島のトドとアザラシの生態や猟獲を詳しく紹介しているが，ゼニガタアザラシの繁殖や上陸場については触れていない．

以上の調査結果から，１）知床半島に繁殖場があったとする調査記録や物的証拠はない，２）直近の上陸場は国後島南西部のシャカリベツで約50km離れている，３）道東から北方四島にかけての分布の中心は歯舞諸島から北海道太平洋岸を結ぶ線上にあり，知床半島はそこから外れている，ということがわかる．

## ２．松浦武四郎の調査報告

知床半島の詳しい調査記録は1850年代の松浦武四郎が最初のもである．武四郎の報告は，同時代の他の報告と異なりアザラシを含む海獣類に関する情報が地名とともに記載され考察の対象となる．武四郎の著作には事実の記載した調査記録とそれをもとにした紀行があり，後者の一部に文飾や粉飾が含まれるため（秋葉 1994），本稿では知床と釧路から根室にかけての調査記録を考察対象とした．ただし，『蝦夷日誌・二編』（秋葉 1999）と『竹四

表１．知床半島のゼニガタアザラシの記録と北海道から南千島の上陸場（1950- 現在）．**Table 1.** Locatoion of records of Kuril seal *Phoca vitulina* in Shiretoko peninsula and haulout site along Hokkaido and south Kuril, 1950-present.

| 番号 No. | 場所 Location | | 頭数 Number | 観察または利用年代 onset year | 調査方法 survey way | 文献 source |
|---|---|---|---|---|---|---|
| A | 化石浜 | Kaseki-hama, Shiretoko | UK | ＜1959 | 聞き取り interview | Ohtaishi&Yoneda 1981 |
| B | 崩浜 | Kuzure-hama, Shiretoko | 1 | 1980 | 狩猟 hunting | |
| 1 | 襟裳岬 | Erimmo cape | 50-170 | ～現在 on going | 観察 sighting | 伊藤・宿野部 1986<br>Ito & Shukube 1986 |
| 2 | 白糠海岸 | Shiranuka coast | 30-0 | ＜1960s | 聞き取り interview | |
| 3 | 尻羽岬 | Shiripa cape | 14-2 | ～現在 on going | 観察 sighting | |
| 4 | 厚岸湾 | Akkeshi bay | 100-0 | ＜1960s | 聞き取り interview | |
| 5 | 大黒島 | Daikoku Is. | 120 | ～現在 on going | 観察 sighting | |
| 6 | ケンボッキ島 | Kenbokki Is. | 10-0 | ＜1960s | 聞き取り interview | |
| 7 | 湯沸岬 | Tofutsu cape | 120 | ＜1960s | 聞き取り interview | |
| 8 | 帆掛岩 | Hokake-iwa | 50-8 | ～現在 on going | 観察 sighting | |
| 9 | ゴメ岩 | Gome-iwa | 60-20 | ～現在 on going | 観察 sighting | |
| 10 | 二ツ岩 | Futatsu-iwa | 100-0 | ～現在 on going | 観察 sighting | |
| 11 | 落石岬 | Ochiishi cape | UK | ＜1960s | 聞き取り interview | |
| 12 | ユルリ島 | Yururi Is. | 100-0 | ～現在 on going | 観察 sighting | |
| 13 | モユルリ島 | Moyururi Is. | 150-0 | ～現在 on going | 観察 sighting | |
| 14 | 風蓮湖 | Furen lake | 0-10 | ～現在 on going | 観察 sighting | 青木私信<br>Aoki personal comm. |
| 15 | 野付湾 | Notsuke bay | 0-1 | ～現在 on going | 観察 sighting | |
| 16 | 貝殻島 | Kaigara Is. | 50 | 1992 | 観察 sighting | 青木 1993<br>Aoki 1993 |
| 17 | オドケ島 | Odoke Is. | 250＞ | 1992 | 観察 sighting | |
| 18 | 水晶島トッカリ岬 | Tokkari cape, Suisho Is. | 35 | 1992 | 観察 sighting | |
| 19 | 水晶島トッカリモシリ湾 | Tokkari-moshiri bay, Suisho Is. | 250＞ | 1992 | 観察 sighting | |
| 20 | 秋勇利島西部 | west Shuyuri Is. | 50 | 1992 | 観察 sighting | |
| 21 | 秋勇利島東部 | east Shuyuri Is. | 120 | 1992 | 観察 sighting | |
| 22 | ハルカリモシリ | Harukari-moshiri Is. | 少 | 1992 | 観察 sighting | |
| 23 | 海馬島 | Todo Is. | 300 | 1992 | 観察 sighting | |
| 24 | カブト岩 | Kabuto-iwa | 70 | 1992 | 観察 sighting | |
| 25 | 色丹島穴間湾～大崎 | Anama bay - Osaki, Shikotan Is. | 130 | 1992 | 観察 sighting | |
| 26 | 色丹島大島 | Oshima, Shikotan Is. | 120 | 1992 | 観察 sighting | |
| 27 | シャカリベツ | Shakari-betsu, Kunashiri Is. | 60 | 1996/1997 | 観察 sighting | ネベドンスカヤほか 1998<br>Nebedonskaya et.al. 1998 |
| 28 | チャシコツ漁場 | Chashikotsu, Kunashiri Is. | 30 | 1996/1997 | 観察 sighting | |
| 29 | 安渡移矢岬 | Atoiya cape, Kunashiri Is. | 117 | 1996/1997 | 観察 sighting | |
| 30 | フユシマ岬 | Fuyusima cape, Kunashiri Is. | 15 | 1996/1997 | 観察 sighting | |

番号は図１に対応する．No. is shown as Fig.1.

郎廻浦日記』（高倉 1978）は関連地域に海獣の記述が無く，『戊午日誌』（秋葉 1985）のみ利用した．鯨類を除く海獣類の記録がある知床半島の地名は次の通りである．

戊午日誌・中（秋葉 1985）　第二十巻　東部志礼登古誌　乾　安政５年（1858）５月６日（陽暦６月16日）羅臼～知床岬
ラウシ　扨土人此処より沖に出て水豹また海獺を猟り，（後略）
トカルムイ　其内水豹多きによつて号るなり
キナウシ　水豹海獺多し
シレトコ　然るに夜更るや磯にて水豹海馬，隻子の啼くが如くキヤア 一〜 と其気味あしき事筆紙の及ぶ処にあらず

同　第二十一巻　西部志礼登古誌　坤
イタシベワタラ　イタシベは海獺のこと也．
ヨコウシベツトボ　其名義は此下に爺等括槍をもちて水豹取りに来り，待ち受て居ると云儀のよし也
イタシベウニ　イタシベは海獺の事（中略）むかし山より大岩を転し落して下に臥たる海獺をころし取りしと云儀也

以上，水豹すなわちアザラシに関連した場所は５か所であり，現在の地名に置き換えると次のようになる．

ラウシ　　羅臼町羅臼市街
トカルムイ　羅臼町昆布浜
キナウシ　　羅臼町赤岩
シレトコ　　斜里町啓吉湾
ヨコウシベツトボ　斜里町硫黄川河口

これらのうち，本種の繁殖場があったとされる知床岬－化石浜に含まれる場所はキナウシで，アザラシやアシカが多いとの記述は実見によると考えられる．ただし上陸や繁殖については言及がない．シレトコでは夜間に海獣の上陸があり鳴き声の様子が記載され，キャアキャアと聞こえた鳴き声はアザラシ類とは考えにくい．また，夜更けになって鳴き声が聞こえた理由は，当時の知床岬啓吉湾には人家があり，昼間は小規模な漁業が行われていたため海獣が近づかなかったとも考えられる．武四郎の現地踏査は６月中旬であり，ゼニガタアザラシの出産期の５月に操業されていたかは不明であるが，本種の繁殖の阻害要因となった可能性もある．残り３か所は伝聞の記載と思われる．以上のとおり，『戊午日誌』には，知床にゼニガタアザラシが繁殖していたことを直接示す記述は得られなかった．

比較のために，『戊午日誌』の海獣関連地名とアザラシ捕獲場所を，本種が現在も分布する厚岸から根室の太平洋岸について確認する．

戊午日誌・上（秋葉 1985）
第十六巻　東部能都之也布誌　乾　安政５年（1858）４月20日（陽暦６月１日）昆布森，24日（６月５日）長節～納沙布岬～野釜布，26日（６月７日）根室

ラツコイソ　是昔ラツコが上りしによつて此名有りとかや
エタシベヱソウ　ヱタシベは海獺の事
ホキリシヨ　ホキリは水豹の事．シヨはイソウの詰り也
モユルリ　是むかしアツケシ土人海馬，水豹猟場のよし
ヱタシヘヱシリ　是また海馬・水豹多きよし聞侍りけり

第十七巻　東部能都之也布誌　坤
イシヤウヤ　イソウは岩島，ヤは水豹等の居る処等を云よし也

である．アザラシ関連地名は４か所である．現在の地名に比定すると

ホキリシヨ
モユルリ　根室市モユルリ島
ヱタシヘヱシリ　根室市ユルリ島
イシヤウヤ

となり，いずれも観察による記述ではなく伝聞の記録と考えられる．

なお，モユルリ島は戦後のゼニガタアザラシの主要猟獲場所かつ分布の中心地と推測されており

（新妻 1983），「是むかしアツケシ土人海馬，水豹猟場のよし」とさいう武四郎の記述の「水豹」を同種とすれば，同島は少なくとも1850年代以前から100年以上にわたりゼニガタアザラシの主要猟獲地だったことになる．

ところで，日本ではアザラシの毛皮は中世には下級貴族の馬具に用いられ（藤田 2003），1807年（文化４）に描かれたと推定される『蝦夷島奇観』によると江戸時代には黒い斑入りの「鼈甲皮」が最高級品とされた（佐々木・谷澤 1982）．一方，武四郎による紀行『知床日誌』（秋葉 1994）には絵師によるアザラシの挿絵があり，シトカラ，ルヲヽ，アムシベ，ホキリ，ヘカトロマウシの５種のアザラシを描き分け解説が加えられている．これによれば「鼈甲皮」はシトカラと同義である．「鼈甲皮」にはワモンアザラシとゴマフアザラシのうち暗色の個体が含まれた可能性もあるが，『蝦夷島奇観』の解説に「トカリ　水豹なり。大サ五六尺。全體黒色、豹文白明なるを鼈甲班とて最上とす」とあるので，本来はゼニガタアザラシである（渡辺 1993）．『知床日誌』にはアザラシ皮産地として「根諸厚消久摺辺の品よし舎利是に次とも品多し」とあり，これを根室・厚岸・釧路では鼈甲皮すなわちゼニガタアザラシが産し，斜里は二級品のゴマフアザラシなどが多産すると解釈すると，当時の知識では知床はゼニガタアザラシの産地ではなかったと考えられる．仮に知床に本種が多産すれば斜里も「品よし」とされたであろうし，繁殖場があれば猟場として利用されたことも想定され，武四郎の記述に現れるべきでとも考えられる．

よって，武四郎の調査記録や紀行では，１）知床の調査報告で海獣の集団上陸は知床岬で経験されたがアザラシ類の可能性は低い，２）知床のアザラシ皮は二級品であり，ゼニガタアザラシの皮である「鼈甲皮」の産地として認識されていなかった，ということがわかる．

### ３．『斜里町史』の記述

哺乳類研究者による引用は少ないが，1955年（昭和30）に刊行された『斜里町史』（第１巻）の記述にゼニガタアザラシの特徴と一致する記述がある．この報告は更科源蔵の聞き取り調査によるもので，話者はアイヌの古老として知られる斜里町在住の坂井惣太郎と坂井惣次郎の兄弟であった．記述は，

武四郎が第一にあげたシトカリ（本当のアザラシ）というのは斜里海岸でも皮は丈夫でトラリ（皮紐）にするのはこれの皮で，脂肪も多くて肉もおいしく，氷には絶対に上らず，知床方面にゐてオホツク海に氷がよせてくると太平洋の方に逃げ，氷がなくなると又戻つて来るといふ寒がりやで，ふだんは岩礁の上にゐて，五月頃に斜里海岸で仔を生むものであるが，これがフイリアザラシであるかゴマフアザラシの一種であるかはつきりしないが，毛が黒くて白い斑点がある（坂井惣太郎談）とも毛色が白くて銭形の黒い斑点がある（坂井惣次郎）といはれているが，松浦武四郎の『知床日誌』の挿絵では暗色に黒斑で描かれてゐる．これは十二月頃までもゐる．（207ページ）

要点は１）氷に上がらない，２）流氷期に太平洋に移動する，３）知床にいる，４）５月頃斜里海岸で出産する，の４つで，５月を出産期とするのはNaito & Nishiwaki(1972)と一致する．

ゼニガタアザラシがわざわざ知床半島基部で出産し，冬季には流氷を避け知床岬を越えて根室海峡まで移動するとは想像が困難だが，話者自身の知識か観察による部分があると考えられる．ただし，文章の記述方法に問題があり，話者の提供した内容と執筆者による加筆部分が区別できない．

よって更科の聞き取り報告は，ゼニガタアザラシが繁殖していたことを伺わせる記載があるものの，話者の内容と執筆者による加筆部分が区別できず，また記載内容も考察するには不足しており，知床に本種の繁殖場があったとする根拠としては不十分である．

### 結論

1850年代の地理的調査では知床はゼニガタアザラシの産地とは認識されておらず，1950年代以降の科学調査では知床半島にゼニガタアザラシの上陸場や繁殖場は観察されなかった．本種の知床での繁殖に直接言及した記録は1955年と1981年の聞き取り報告のみであり，これを根拠にゼニガタアザラシが知床半島で過去に繁殖していたと結論するには不十分である．

謝辞

大泰司紀之北海道大学獣医学研究科教授には聞き取り内容の確認や文献の送付を，近藤憲久根室市博物館設立準備室学芸員と根室市在住の青木則幸氏には聞き取り情報や観察記録を，松田功斜里町立知床博物館学芸員には知床半島での発掘調査結果について教えていただきました．お礼申し上げます．

引用文献

秋葉實(解読)．1985．戊午東西蝦夷山川地理取調日誌（上･中)．北海道出版企画センター，札幌．

秋葉實．1994．知床と武四郎(講演記録)．松浦武四郎知床紀行集．pp84-95．斜里町立知床博物館協力会，斜里．

秋葉實(解読)．1994．東西蝦夷山川地理取調紀行知床日誌．松浦武四郎知床紀行集．pp60-80．斜里町立知床博物館協力会，斜里．

秋葉實（翻刻・編)．1999．校訂蝦夷日誌（二編)．北海道出版企画センター，札幌．

青木則幸．1993．北方四島海獣類調査報告．ゼニ研通信13：21-24．ゼニガタアザラシ研究グループ，帯広．

伊藤徹魯・宿野部猛．1986．ゼニガタアザラシの生息数と生息状況．和田一雄ほか(編)．ゼニガタアザラシの生態と保護．pp18-58．東海大学出版会，東京．

犬飼哲夫．1954．知床半島の動物．網走道立公園　知床半島　－学術調査報告－．pp64-66．網走道立公園審議会．

犬飼哲夫．1967．知床の鳥獣類．北海道教育委員会（編)，北海道文化財第９集　知床半島．pp3-11．北海道文化財保護協会，札幌．

宇野裕之･山中正実．1988．鰭脚類．大泰司紀之･中川元（編)，知床の動物．pp225-248．北海道大学図書刊行会，札幌．

大泰司紀之・齋藤隆．1981．知床半島沿岸域の鰭脚類．知床半島自然生態系総合調査報告書（動物編)．pp165-181．北海道，札幌．

長田英巳．1993．南部千島における海獣類の生息状況と今後の課題．ＲＩＳＥ４：134-135．ギミック，札幌．

更科源蔵．1955．斜里アイヌ．斜里町史．pp169-230．斜里町．

高倉新一郎(編)．1978．竹四郎廻浦日記(下)．北海道出版企画センター，札幌．

戸川幸夫．1961．野性への旅Ｉ知床半島．225pp．新潮社，東京．

ネベドンスカヤ　Ｉ．Ａ．・青木則幸・近藤憲久．1998．国後島，及び北海道東部におけるゼニガタアザラシとゴマフアザラシの上陸場所の個体数．根室市博物館開設準備室紀要，12：33-40．

藤田明良．2003．都にやって来た海獣皮－古代中世の水豹と葦鹿．大塚和義（編)，北方の先住民交易と工芸．pp36-40．思文閣，京都．

和田一雄・羽山伸一・中岡利泰・宇野裕之・島崎健二．1986．根室半島周辺海域の秋ザケ定置漁業におけるゼニガタアザラシの生態と被害について．和田一雄ほか（編)，ゼニガタアザラシの生態と保護．pp223-273．東海大学出版会，東京．

渡部裕．1993．蝦夷地における動物名称の認識とアイヌの生業－海獣類の事例から－．北海道立北方民族博物館研究紀要２：45-58．北海道立北方民族博物館，網走．

羅臼町．2001．羅臼町百年史．1382pp．羅臼町．

羅臼町郷土研究会．1977．羅臼町の地名について．122pp．羅臼町教育委員会，羅臼．

Naito Y. & Nishiwaki M. 1972. The growth of the two species of the harbour seal in the adjacent waters of Hokkaido. Sci. Rep. Whales Res. Inst.24: 127-144.

Ohtaishi N. & Yoneda M. 1981. A thirty four years old male Kuril seal, from Shiretoko pen., Hokkaido. Sci. Rep. Whale Res. Inst.33: 131-135.